

2014年度地域・公共マネジメントプログラム 演習A ゼミ追加選考試験用レポート課題

【前文】 地域・公共マネジメントプログラムの新原ゼミは、「3. 11以降の持続可能な地域社会／コミュニティ形成」をテーマとして、“フィールドワーク(learning/unlearning in the field)” のトレーニングを分厚く重ねています。下調べはしますがフィールドで出会った“生身の現実”に対して誠実に仮説を生成・再構築していくフィールドワークにとって、もっとも大切となるのは、“よりゆっくと、やわらかく、深く、耳をすましてきき、勇気をもって、たすけあう”という姿勢です。この言葉の意味を理解しようとつとめたうえで、下記の課題に応じてください。

☆レポート冒頭に、下記のデータを必ず記してください。

所属学部・専攻・学年・学籍番号・氏名(ふりがな)

出身地・出身高校 PC メールアドレス

【課題1】:「プロフィール」の提出 400字

＜もし「社会[科]学事典」で自分の人名項目を400字で載せるとしたら＞というテーマで書いてください。これがゼミに参加するための「入場券」となります(在籍しているゼミ生は毎年これを書いていきます)。

プロフィールの参考例:

新原道信(にいほらみちのぶ) 伊豆半島の教師一家に生まれ、静岡県立韮山高校を卒業した後、哲学者・真下信一を慕って名古屋大学で哲学、東京大学で社会思想、一橋大学の矢澤修次郎のもとで社会学、サッサリ大学でメルレルに師事しフィールドワークを学ぶ。イタリアより帰国後、千葉大学、横浜市立大学、中央大学を歴任し地域社会学と国際フィールドワークを担当。沖縄とサルデーニャの比較研究から、地中海・ヨーロッパ、大西洋、南米、アジア・太平洋の島嶼社会を中心にフィールドワークを行い、メルレルとの間で島嶼社会論、同時に、メルッチ夫妻との間で社会的痛苦を抱えるひとをテーマとした“聴くこと社会学”の構築をめざす。両者との協業から、「コミュニティを基盤とする参加型アクション・リサーチ」に基づく“社会のオペレーター”育成を企図している。⇒まだ論文を書いていない新2年生は、研究したいテーマを書いてください。

【課題2】:「マニフェスト」の提出 字数自由

ゼミの共通テーマとしている「3. 11以降の持続可能な地域社会／コミュニティ形成」に、どこからどのように取り組むのかを自由に書いてください。わたしには、福島県飯館村をルーツに持つゼミ生がいました。「3. 11」の前に彼女は、飯館村の若者が都市に出て行く／大学に行くという選択をしないのはいかなる構造的要因があるかについて、すばらしい卒業論文を書いて卒業していきました。その彼女から、全村避難となった故郷を思い「背骨が折られるようです」というメールが届きました。わたしの場合は、彼女の悲痛を「代弁(represent)」するという立ち位置からテーマに取り組むこととなります。あなたの場合は、何を念頭におき、いかなる立場から、テーマに取り組みますか？

【注意事項】

① 上記の課題は、下記のかたちで新原宛に送ってください。送付の仕方も含めて評価の対象となります。

提出期日:11月20日午後6時00分まで ※面接当日、紙ベースでも持参

提出方法:提出期限までに以下の形式を遵守し、niihara@tamacc.chuo-u.ac.jp に送付すること。 ☆以下の形式を整えていないレポートは受け取りません。

⇒添付ファイルの形式は、必ず下記の形式を守ること:

ex. 131120 地域公共Aゼミ追加選考用レポート・氏名

⇒下記の形で必ずヘッダーフッターと頁をつけること:

左上:地域公共Aゼミ追加選考用レポート

右上:氏名

左下:氏名 中央下:頁 右下:提出日

- ② お送りいただいた課題は、在ゼミ生に閲覧してもらう可能性があります。11月21日の面接は、在籍しているゼミ生にも公開するかたちで行う予定です。

以上です。(1)地域社会／コミュニティの「再生」「復興」にきちんとかかわる。(2)特定の「フィールド」と長くつきあっていく。(3)様々なひととの間で＜場をつくる＞ことに「骨身」を惜しまない。(4)教えられたり、指示されたりする前にまず自分で始めてみる。(5)自分がいまだ体験していないことだとしても興味関心を持つとしつづける。(6)こうしたことにチャレンジ(!!)したいというひとを歓迎します。どうぞよろしく申し上げます！ 中央大学文学部教授 新原道信 拝